

筑波海軍航空隊記念館

「歴史」を体感する!!

記憶の空へ...



茨城県笠間市

本日はようこそいらっしゃいました! 当館は筑波海軍航空隊の跡地を活用し、同隊および戦争に関する記録の収集・保存・公開を行っています。

筑波海軍航空隊は1934(昭和9)年、戦闘機などの操縦訓練を行う海軍の練習航空隊として開隊されました。太平洋戦争末期には、特別攻撃隊も編制され、「特攻」の訓練も行われました。終戦とともに同隊は解散されましたが、敷地内にあった司令部庁舎は戦後も残り、様々な形で現在まで活用されてきました。終戦から年月を経ても多くの史跡が敷地内や近隣に当時の面影を色濃く残したまま現存しています。

当館はこれらの史跡群や資料を活用し、「歴史」を体感する—という理念の元、戦争遺跡の存在意義を世に問う為に設立されました。ご来館いただいた皆さまが「戦争」のことや「命、平和の尊さ」について考えていただけるきっかけになれば幸いです。



筑波海軍航空隊記念館へのアクセス



■お車でお越しの方: ナビは「茨城県立こころの医療センター」を設定してください。
常磐自動車道 友部SA・スマートICより県道281号線を友部駅方面へ約15分
北関東自動車道 友部ICより直進約6分
駐車場は無料の記念館駐車場(門を入ってすぐ右手側)をご利用ください。

■電車でお越しの方: JR常磐線・水戸線 友部駅下車 友部駅南口よりタクシー約6分
「茨城県立こころの医療センター」行きバス約10分
詳しくは茨城交通ホームページにて><http://www.ibako.co.jp>
レンタサイクルご利用は
「地域交流センターともべ(Tomoo)」 0296-71-6637へお問合せください。

筑波海軍航空隊記念館

〒309-1717 茨城県笠間市旭町654 TEL.0296-73-5777
☒ info@p-ibaraki.com <http://www.p-ibaraki.com/tsukuba>

開館時間/9:00~17:00(最終入場16:00)

休館日/毎週火曜日・年末年始(12月29日~1月3日)

※臨時休館する場合もございます。

記念館入館料/大人(18歳以上) 500円(団体20名様以上400円)

小人(小学生~高校生) 300円(団体20名様以上240円) ※その他各種割引もございます。



筑波海軍航空隊
記念館ホームページ

施設案内図・展示紹介

■なぜ、この戦争遺跡を遺そうとするの?

このエリアでは、筑波海軍航空隊の歴史を後世へ語り継ぎたいと活動を始めた、元筑波海軍航空隊の隊員やご遺族について、その経緯と活動を紹介しています。

■当時の風景

戦前、戦中の写真を、撮影された場所の紹介と共に展示しています。かつての光景が、今どの様になっているのかを対比する事が出来ます。



■未来へ向けた継承の在り方

戦争遺跡に与えられた役割とは? 戦争体験者の減少により継承の難しさが社会テーマとなる中、改めて「これからの継承の在り方」について考えて頂くエリアです。

■筑波海軍航空隊の歴史

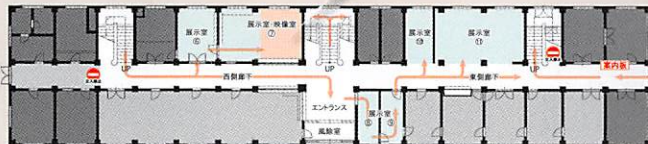
記念館のメインとなる展示です。海軍航空隊の創設から終戦までを、主に筑波海軍航空隊での出来事を中心に、戦争の歴史を振り返ります。

■司令室

筑波海軍航空隊の司令官が在籍した部屋を見学出来ます。室内は、当時の面影をそのままに残します。

■ロケ作品紹介展示

今、記念館は茨城県一のロケ活用実績を持ちます。(※2020年いばらきフィルムコミッション公表) 何故、ロケを誘致するのか? 戦争遺跡の活用と知るきっかけの創生は、多くの方に考えて頂きたいテーマです。



旧司令部庁舎フロアマップ

※立入禁止エリアには入らないでください。
エリア部分はご購入出来ません。

昭和13年に建てられた司令部庁舎をはじめ、滑走路など、当時を体感できる場所。



1 旧司令部庁舎(記念館)
1938(昭和13)年に建てられた、海軍航空隊本庁舎が、ほぼ当時の姿のまま現存しています。



2 号令台
この号令台に多くの隊員が集合し訓練しました。柵は無くなりましたが、現在も当時のままの姿を残しています。



3 かえり雲
筑波海軍航空隊の元隊員で、世界的に活躍する彫刻家の流政之さんが、この作品を寄贈して、敷地内に設置されました。



4 供養塔
亡くなった隊員たちの供養のため、当時の司令古瀬貴季氏によって建てられました。



5 水素瓦斯格納庫跡
記念館の奥、当時の「病舎」裏の供養塔の脇に、水素ガスの貯蔵施設がありました。今は、タンクはありませんがその基礎部分だけが残されています。



6 汽缶場煙突の跡
この基地の一番奥に汽缶場(ボイラー室)があり、当時高い煙突が立っていました。その基礎部分が今でも残っています。



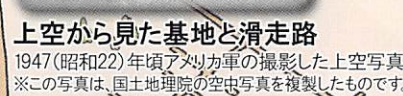
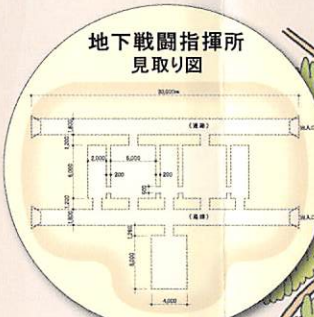
7 旧表門
友部分遺隊時代は、こちらが正門でした。今でも当時の門柱のまま敷地跡の裏門として使われています。



8 当時のコンクリート塀
当時から基地の周りを囲んでいたコンクリートの塀は、今でも高く頑丈なまま残っています。



9 正門(隊門)
開隊当時(友部分遺隊時代)は裏門として使われていましたが、1938(昭和13)年に筑波海軍航空隊として独立後は、この基地の正面口となりました。



上空から見た基地と滑走路
1947(昭和22)年頃アメリカ軍の撮影した上空写真
※この写真は、国土地理院の空中写真を複製したものです。

筑波海軍航空隊のあゆみ

- 1934(昭和9)年
霞ヶ浦海軍航空隊 友部分遺隊が開隊。
- 1938(昭和13)年
司令部庁舎が完成。第11練習連合航空隊に編入、筑波海軍航空隊として陸上機操縦教育担当。
- 1944(昭和19)年
戦闘機の実用機操縦教育に移行。滑走路、掩体壕、地下壕建設。邀撃戦闘機隊を編成、さらに特攻隊を編成命令下る。
- 1945(昭和20)年
第10航空艦隊に編入、特攻要員の訓練に従事。特攻作戦開始。第3航空艦隊に編入、関東方面制空任務に従事。B-29迎撃、米軍艦載機来襲に紫電、零戦52型で応戦。8月15日終戦。



1938(昭和13)年当時の司令部庁舎と木造兵舎

10 慰霊碑
1999(平成11)年、「筑波海軍航空隊員の慰霊のために建てられました。毎年5月頃、この前で慰霊祭が開かれています。2017(平成29)年に現在の場所に移されました。

11 当時の桜並木
当時植えられたであろう山桜やソメイヨシノの桜並木は、隊門から記念館への道や駐車場から筑波神社跡の道に連なり、現在でも春になると花を咲かせます。

12 神風舎跡
(現在はご覧になれません)
特攻が決まった隊員が宿舎する「神風舎」。学徒出陣の特攻隊員を中心とした「筑波隊」の若者たちが、日記などに「神風舎」の思い出を綴っています。

13 神社跡
多くの隊員がこの神社にお参りました。出撃前の隊員にとって、また、命の危険もある厳しい訓練の中、隊員にとっては心強い存在であったと思われます。

14 滑走路跡
1944(昭和19)年に整備された滑走路は、現在でも当時の形のまま生活道路として利用されています。窓抜きは、筑波海軍航空隊を語り継ぐ事を目的に、2017(平成29)年に建てられた『平和の礎』。

15 地下戦闘指揮所
1945(昭和20)年2月、空襲等に備え、戦闘指揮を執るために造られた、コンクリート造り半地下の要塞でした。



零式艦上戦闘機21型(レプリカ)
2011年 映画「連合艦隊司令長官 山本五十六—太平洋戦争70年目の真実—」の為に製造された零戦レプリカです。



地下トンネル(地下排水路)
有事の際に脱出路を兼ねた幅1.2m、全長2.2kmの地下トンネルの約半分が現存します。
(現在は立入りできません。)